北陸自動車道路関係埋蔵文化財

調　査　概　報（Ⅱ）

加賀市　三　木　C　遺　跡

加賀市　橘　　遺　　跡

加賀市　豊ひようたん池遺跡

1971・3

石川県教育委員会

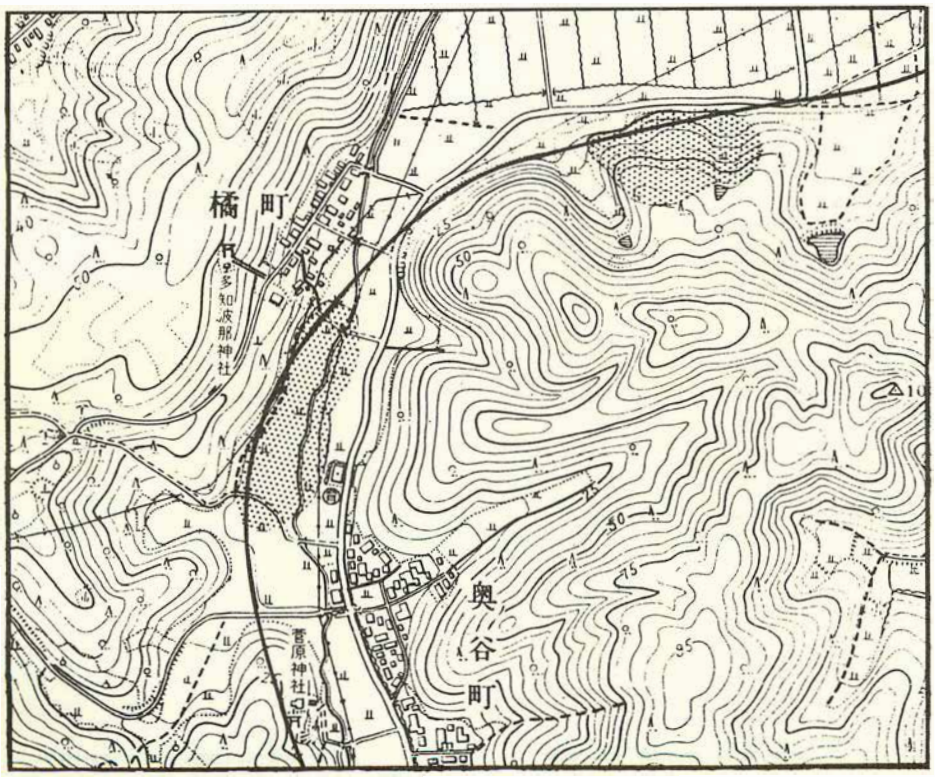
加賀市三木C遺跡

調査期間　昭和45年10月3日～9日
調　査　員　牧野　隆信・野尻与之佐
調査補助員　下坂　正明・篠原　隆一・矢敷　雅則・石田　稔・宮北　和子
松木　知勝・加藤　明彦・森本　典子・荒木　実・山下　起子
上田　雅子・林　勉・上田　敏夫

Ⅰ　調査経過

本遺跡は国道8号線より庄司谷をこえて三木町へ通ずる道路をはさむ水田面にあり、奈良、平安期と想定される土師器および須恵器破片の散布地であった。分布調査の際に規模などを確認することができなかったが、散布面がほぼセンターラインの西側一帯に拡がる傾向にあることを認めていた。今回の発掘調査は遺物包含層あるいは遺構が道路々線に達しているかどうかを確認することに主目的をおいている。

調査はまず綿密な地表面観察と採集を行い、その結果に基づきA・B・C3本のトレンチ（試掘溝）を設定した。



Aトレンチ　1m×20m

深さ約1mまで掘り下げたが、若干の土師器小片のほかは、遺物包含層（旧生活面と推定できる程度の）および遺構は検出できなかった。

Bトレンチ　2m×15m

深さ約50cmまで掘り下げたが、遺物および遺構は発見できなかった。

Cトレンチ　1m×20m

深さ約70cmまで掘り下げたが、これも遺物・遺構の検出はなかった。

II　小　　結

今回の発掘調査では、遺物の検出は極めて微々たるものであり、また遺構は全く発見されなかった。このことは本遺跡の中心部がセンターラインの北西方山麓に寄って存在し、道路々線付近はすでにその最末端部であることを示すものと判断できた。

加　賀　市　橘　遺　跡

調査期間　　昭和45年10月10日～16日

調　査　員　　野尻与之佐

調査補助員　　山下　起子・宮北喜美子・村井　和子・山田　敏子・木戸浦範子

上田　雅子・加藤　明彦・浜田　明雄・石田　　稔・矢敷　雅則

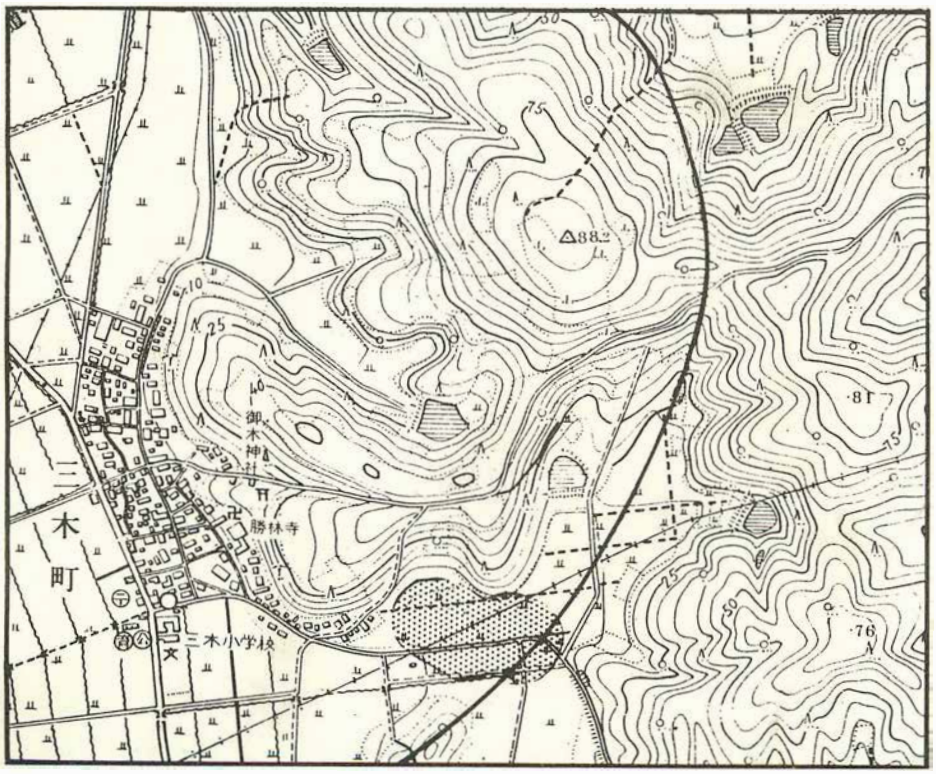
I　調　査　経　過

本遺跡は多知波那神社の南東麓に開けた水田面を中心に所在し、奈良・平安期と考えられる須恵器・土師器破片の散布が認められる。しかし、表面観察からすれば遺物包含層の中心部はセンターラインの東側一帯にひろがりをもつものであり、今回の発掘調査は、その一部が道路々線にまで達しているかどうかを確認することに主たる目的がある。トレンチ（試掘溝）はつぎの３本を設定した。

Ａトレンチ　４ｍ×10ｍ

深さ約60cmまで掘進したが遺物・遺構の発見はなかった。

Ｂトレンチ　２ｍ×10ｍ



深さ約70cmまで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなかった。

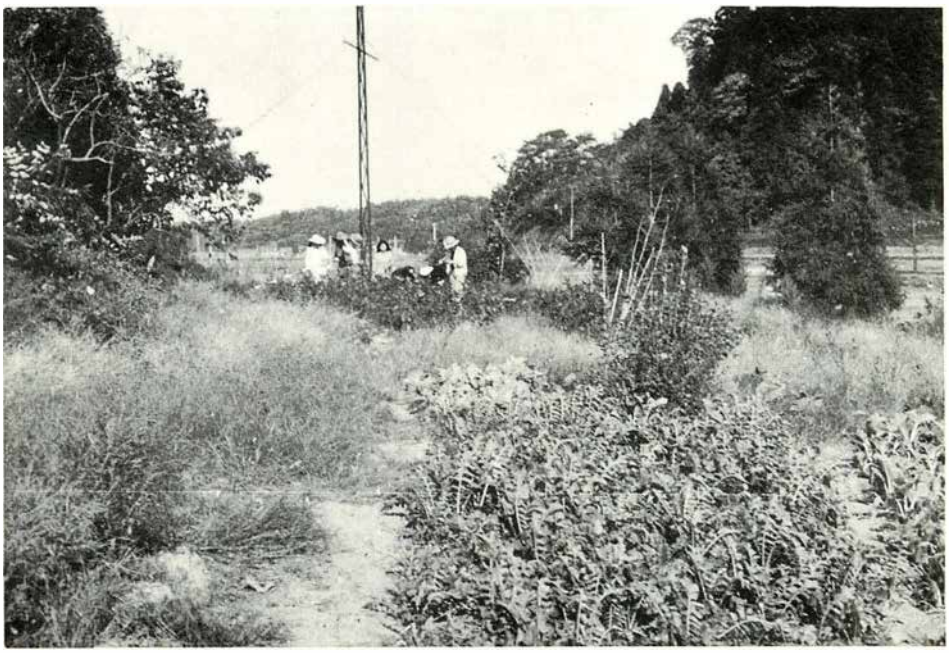
Cトレンチ　2m×20m

深さ約1mまで掘り進んだが包含層を認め得なかった。

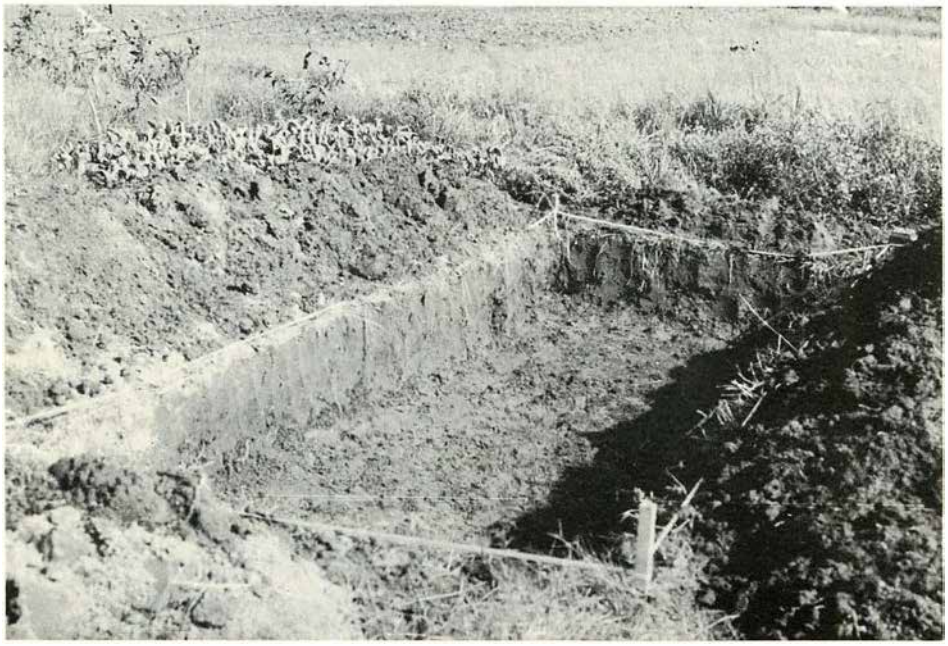
II　小　　結

以上3点でのトレンチ発掘では包含層及び遺構は発見できなかった。すなわち、本遺跡はセンターラインの東側（奥谷村寄り）に中心部をおくものであり、道路々線内にその範囲が及んでいないことを確認した。

なお、橘遺跡調査に際しては橘町区長三瀬庄一氏に多大の御協力を得ましたことを付記し、感謝の意を表します。



橘 遺 跡 近 景（調査風景）



発掘中のトレンチ（三木Ｃ遺跡）

加賀市豊ヒョウタン池遺跡

調査期間　昭和45年８月１日～６日
調　査　員　上野　与一・小村　茂・但島　秀三
調査協力　北陸大谷高校地歴クラブ

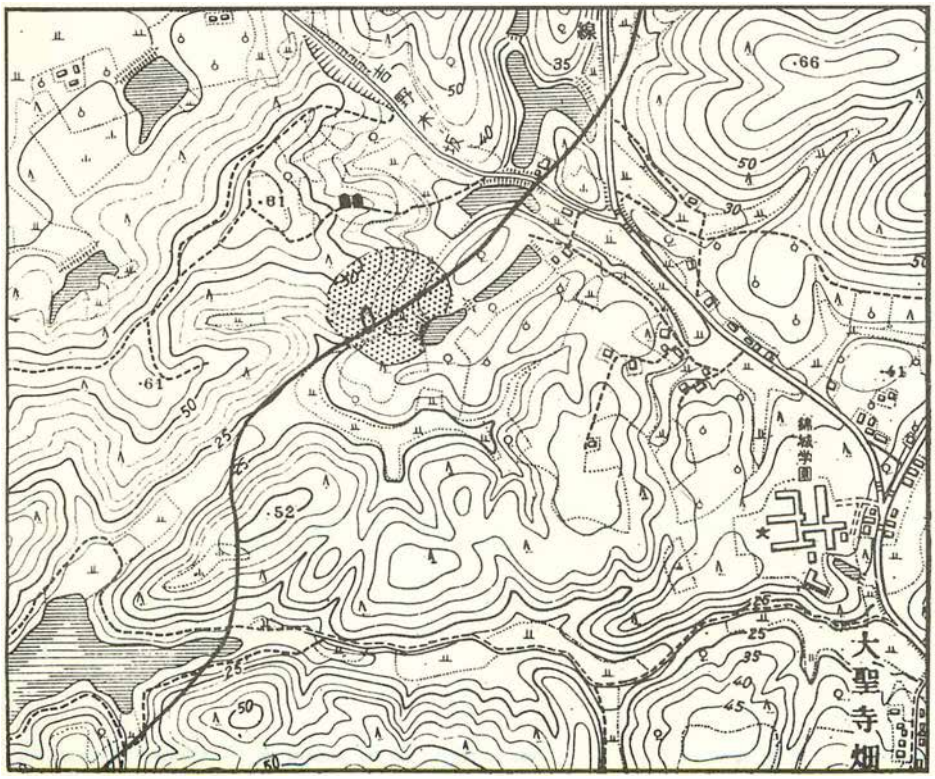
I　遺跡の位置

豊ヒョウタン池遺跡は、昭和42年に北陸自動車道路に係る埋蔵文化財分布調査を実施した際、加賀市豊町地内において発見したものである。

遺跡は大聖寺町より黒崎町へ通ずる道路の西側、ヒョウタン池の西方約60ｍの山麓に構築されており、現状では平坦面をなしているが、開拓以前はかなり傾斜をもっていたものと推定される。

II　調査経過と遺構

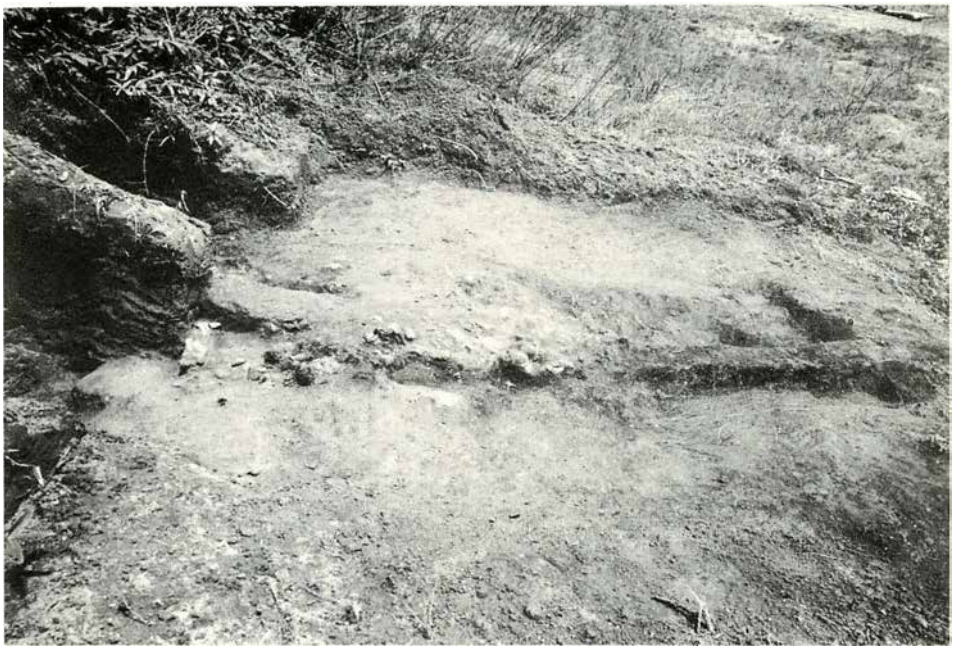
製鉄址は表面観察では、他にくらべて黒色化が強いためほぼ長楕円形を呈するものと推察されたが、正確なプランを知るため、平面的に掘りさげたところ、山の傾斜に対して直

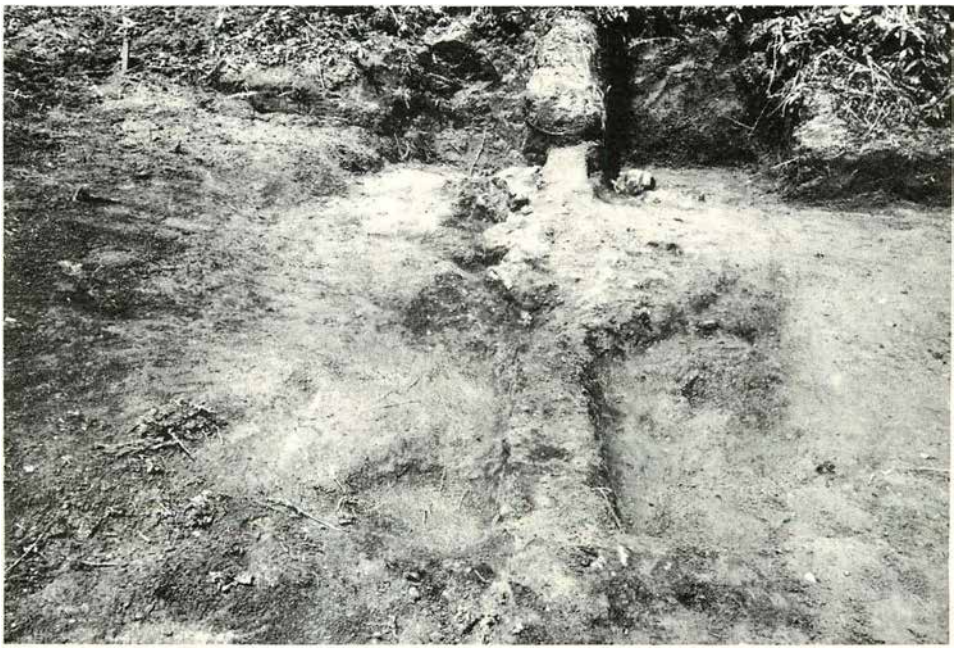


0　豊ヒョウタン池遺跡
鉱滓散布範囲

角（主軸は北西）に構築された、長楕円形プラン（3.5×1.5m以上）を有するものと判断された。遺構の中央部でクロスする壁を残して、更に掘り下げたところ、長楕円形の掘り込みは以外と長く山の方へ伸びていることが知られた。掘り込み上方からは土製送風管状遺物が、内部では炭、焼土、鉱滓が認められ、また掘り込みの側壁は焼土帯が認められたので、検出は比較的容易であった。これらのことから炉本体は、この掘り込み内にあるものと考えられる。

以上によって知られるように、本例は製鉄址としては特異なものであり、炉本体の構築立地と形態には充分留意する必要がある。また、鉱滓は外見上の観察では、歩留の良い方に属するものと思われ、化学的分析とあわせて本遺跡の性格究明に努力したい。





豊ヒョウタン池遺跡